

## はじめに

1996年は、残り1ヶ月となりました。年末には、恒例の十大ニュースが報道されますが、ここ数年は毎年のように世界を驚かせる大事件が起きております。今年の大事件は、衛生研究所に關係の深い腸管出血性大腸菌O-157による大型の食中毒事件であろうと思います。今なお、あちこちでの発生が報ぜられ気の抜けない状況が続いております。今回の事件に際して、各衛生研究所は衛生行政の科学的技術的中核として十分な実績をあげており、厚生省をはじめ、各自治体から十分な評価をうけたと考えております。今後は、さらに国際化の進む中、増加するであろうエイズをはじめ各種感染症や寄生虫病など、新興、再興感染症への対応に重要な役割を担って行くことは言うまでもありません。

このような時代のニーズに応えるように、今、私共の研究所は見直しによる改組、改革を計画しております。これは、焦眉の急務である微生物検査体制の強化のみならず、輸入食品の安全性チェック、環境汚染のモニタリング、さらに技術的立場からの研修指導や、リアルタイムの整理された衛生情報の発信基地となるためであり、その土壌は少しずつですが熟してきていると信じます。

私共の衛生研究所では本年10月から新たな国際協力事業として、2つ目のJICA委託による集団研修コース「都市型水質汚濁防止」を2ヶ月間の予定で開始いたしました。日常業務と平行して行う本事業はかなりの負担を要しますが、所員の国際的視野の拡大と所内にもたらず活性化は、その苦勞を補って余りあるものと思っております。

平成9年度から実施される新地域保健体制下での衛生研究所の機能と役割が、衛生行政の中に充分生かされていくように念願して止みません。

さて、年報第23号が例年のように手作りで出来上がりました。どうぞご高覧の上、一層のご指導とご助言を賜れば幸いです。

平成8年11月

札幌市衛生研究所長

菊地 由生子